

# 2019年4月定例自然観察会実施報告書

2019年4月28日

1班 池内清

1. 実施日：2019年4月13日（土）9:30～15:00 晴
2. テーマ：春の長坂山を楽しむ
3. コース：神鉄藍那駅～長坂山～山田小学校前バス停
4. 参加者：ビジター36名、会員26名（うち1班17名）
5. 配布資料：観察会ルートマップ
6. 説明担当：参加者を5グループに分け、会員にはコース担当を配置。
7. 概要：

コースは、藍那古道と呼ばれている義経ゆかりの歴史的な背景をもつ道を含み、棚田が残る田園風景と、それに続く里山で構成されている。

藍那小学校と数軒の民家を過ぎると、すぐに狭い谷あいの道（藍那から丹生山へ向かう藍那古道）となり、急斜面に生える高い木立の下生えを中心とした観察をする。

コースに入ってすぐの開けた場所で一坪ほどの狭い場所に灌木を中心として10種類を超える植物（ヤブコウジ、ヒメコウゾ、コバノガマズミ、イボタノキ、テイカカズラ、ナガバジャノヒゲ、ウグイスカグラ、シラカシ、ヒガンバナ、ボタンヅル、クサイチゴ等）が群生する場所があり、植物の植生の面白さを味わった。

所々に元は畑だったと思われる箇所があり、その周辺ではハコベ、コハコベ、ウシハコベが見られ同定ポイントを確認した。つづいてイヌザクラとウワミズザクラが並んで生えているところがあり枝が高く、手に取って観察することはできなかったが、樹肌の違いや、まだやっと新芽が出かけたイヌザクラに対して、ウワミズザクラは既に花穂を立ち上げており花期の違いを確認できた。



低い石積みの所では、つる性植物が多種観察され、よく似たテイカカズラ、イタビカズラ、ビナンカズラの3種の見分け方や、生育状態によって葉の大きさは大きく変化することを説明した。

この道では、チャノキが随所に見られ昔の街道沿いの植栽であったことが窺えた。草本類では、紫がかった緑の葉をつけたムラサキケマンが花盛りで、薄緑から紫色の葉脈が目立つものまで多様な変化があるウバユリが葉を広げつつあり、小さな花ではカテンソウ（花点草）が、その名のごとき花を咲かせていた。

大木が林立する薄暗い個所では、アオキやシロダモ、ヤブニッケイなどが低木層を形成しており、アオキの1年目の幼木や雌、雄花の見分けポイント、クスノキ科の特徴である参行脈、葉の裏の色や葉のつき方の違い、臭いの違いなどの判別ポイントを確認した。

脇道や、橋がある個所など開けた場所では、マタタビやキ



ブシが見られ、その効能や雌雄の違いを説明した。日当たりの良い場所では、タチツボスミレやカキドオシの花を楽しめた。

藍那古道から長坂山への分岐点付近では、ハカタシダ、リョウメンシダ、キッコウハグマ、ヤマネコノメソウが見られた。細い山道をたどると、タラヨウが手近に茂っており、実際に葉書として使用した（切手を貼って消印が押してある）ものを見せて、葉書の木とも呼ばれる所以の説明を行った。



細い坂道を抜けると棚田が広がっているが今では休耕田となっていた。ここでは、ミミナグサが残っており外来のオランダミミナグサと比較できた。ヒメウズがかわいい花をつけており、畦道ではウマノアシガタ、ゲンノショウコ、キツネノボタン、ヘビイチゴ、キツネノカミソリなどがみられた。しばらく続く畦道では、キンミズヒキ、キジムシロ、タツナミソウがあり、またヤハズエンドウとスズメノエンドウも並んで生えており、その違いの確認が容易であった。休耕田の周辺では、ヒサカキが花をつけており、雄、雌花の違いを比較できた。

休耕田（まだ一部では畑に転用）を抜けると「まりの山」への急登にかかる。ここから山の植生に変わる。このあたりにはシラカシが多く、アラカシはほとんど見られず、アオキをはじめヒサカキやウグイスカグラが低木層として見られた。

「まりの山」の頂上近くなると植林されたスギ林となり、足元にはツルカノコソウやコショウノキが現れた。

「まりの山」到着は12時過ぎ、昼食をとり、12:50から、「まりの山」にある三角点（国土地理院では長坂山で登録）についての解説。13:00から、グループ毎に「まりの山」山頂の植生（さして広くない場所にもかかわらず、アベマキ、クヌギ、ネムノキ、カゴノキ、ヤブニッケイ、ウワミズザクラ、クマノミズキ、ウグイスカグラなど種々の木々があり、足元にはムロウテンナンショウ、ヨウシュヤマゴボウ等）を確認後、順次出発した。



下り始めは急坂で注意が必要だが、ムラサキケマンをはじめとし、ヤブニンジン、ヤブジラミ、オヤブジラミ、キンミズヒキ、ダイコンソウ、クサイチゴ、ウマノミツバ、タチツボスミレ、シハイスミレ、ハグロスミレ、ナガバノタチツボスミレ、カンサイタンポポ等が見られた。



長坂山の下りは、アオキの群落が目立ち、あいだにウグイスカグラが点在していた。スギ林を抜けたあたりから、シュンランがちらほら見え始め、ヤマコウバシやニガキを見て、再びスギ林に入るころ、コショウノキの群落が現れた。花は僅かに残っているが、ほとんどは緑色の小さな実をつけており、その中に混じってハナイカダが点在していた、この木も雌雄異株なので、順に雌花か雄花かを確認しながら下った。その後緩やかな下りになり、シュンランの花を探し、ウグイスカグラやツリバナ、コバノガマズミなどの低木の芽吹き、点在するヤマザクラの花等を楽

しみながら山田の里に入り予定していた15時頃に無事バス停に到着し、各グループが揃ったのを確認して解散した。

天候にも恵まれ、心配していたバスへの乗車も、箕谷まで歩かれる方もおられたため、全員乗ることが出来、満足のいく観察会だった。

#### 8. 反省点など：

- ・コースが長いため、説明する時間が十分に取れなかった感があった。
- ・今回は、2年かけての準備になり、それだけ充実した内容で構成できたと思われ、参加者には十分満足していただけたようであった。